

ソ連邦抑留記

① 黒澤 隆也

今日もまた吹雪に暮れて
わびしかり

吾れ囚はれのシベリヤの旅を無事することもあるがち無

洲より私共乗せた貨物列車ひ出づるままに筆を走らせて
は空筋骨を刺すシベリヤ

氣候風土

ヨーロッパを西へ進むこと數

日、こゝに約四旬に亘る窮屈

た頃、カチニーシャの領と共

に一行かうが戻らうかオーロ

ラの下をロシアは北國県知

地點に在る「ラーダ收容所

らす」という頭が流行した

一に抑留生活の第一歩を踏み

た頃、カチニーシャの領と共

に一時半位で、私共の職場で

はモスクー東南三百八〇キロ

の地點に在る「ラーダ收容所

</div